



神奈川支部報

神奈川支部報 第31号

発行日：2025年9月30日

発行者：大槻利行

発行所：公益社団法人日本山岳会神奈川支部
海老名市上今泉 4-21-54-201 大槻方

令和7年度神奈川支部通常総会が開催され、 大槻支部長代行が支部長、長島役員が副支部長に それぞれ就任されました。

5月24日(土) 15:00~16:10、横浜駅西口の「かながわ県民センター」604会議室において、令和7年度日本山岳会神奈川支部通常総会が開催されました。



決議事項

- 第1号議案 令和6年度事業報告
- 第2号議案 令和6年度会計報告
- 第3号議案 令和7年度事業計画案
- 第4号議案 令和7年度予算案
- 第5号議案 役職者の交代案

総会への出席者は、32名。委任状による出席22名（支部長代行、中島会員に委任）書面による議決権行使10名（全員全議案に賛成）計64名。令和7年3月末現在の支部会委員は122名であり、出席者64名は過半数を超えているので総会は成立していることが報告されました。

次いで支部規約第15条により、本総会の議長に大槻支部長代行が選出されました。

(1)永井事務局長より、令和6年度事業報告について説明があり、承認されました。次いで、青木会計担当より、令和6年度会計報告の説明があり、承認されました。さらに砂田監事より、会計監査および業務監査の結果について報告がありました。繰越金の268,710円は多いのではとの指摘があり、今後、基金として明文化する等、役員会で検討することとしました。

(2)永井事務局長より、令和7年度事業計画について説明があり、承認されました。次いで、青木会計担当より、令和7年度予算案の説明があり、承認されました。

(3)大槻支部長代行より、令和7年度の役職者交代の説明があり、大槻支部長代行が支部長に、

長島役員が副支部長に就任することが承認されました。

※支部総会での決定事項は、事前配付の総会資料の原案通りに承認されましたので そちらの資料でご確認をお願い申し上げます。

イベント報告

山の天気ライブ授業

令和7年3月15日(土)・16日(日)

猪熊隆之氏による山岳気象のライブ授業は、2020年に神奈川支部にて第1回を開催することになっておりましたが、あのコロナ禍により急遽中止となり、その後各支部にて開催されてきて、今回で12回目の開催となります。かながわ県民センターで開催され、支部会員の他、他支部会員や非会員合わせて76名の参加者がありました。

このライブ授業は、3月15日の机上講習と3月16日の大野山での現地講習の予定でしたが、生憎16日は荒天の予報のため、4月13日に改めて現地講習を実施することになりました。ですが、4月13日も荒天となり現地講習は中止となりました。今のところ、現地講習の見通しがたたないため、机上講習のみの報告といたします。

机上講習は、以下の4つの観点から講演をいただきました。

では、低体温症は暴風雨(雪)下で発症することが多く、太平洋側では台風や発達中の低気圧が接近または通過するとき、日本海側では低気圧が通過した後と山域により注意する時期が異なる。

③ 「落雷と局地豪雨から身を守る」では、雷雨と局地豪雨をもたらすのは積乱雲で、大気不安定な時上空に達するほど発達する雲(やる気がある雲)が近くにあり、雷鳴、急に風が冷たくなる、大粒の雨、雹やあられが降るなどの兆候があればすぐ避難すること。

④ 「気象遭難を防ぐための方法」では、計画段階でリスクを想定しておくこと、引き返しポイントを決めて置き天候の悪化などに備えておくこと。

今後の我々の山行に役立つ、示唆に富んだ講演でした。

講演後のアンケート結果から、40代から80代以上の方が参加し、参加を知る手段としては、支部からの送信、JACのHP、講師の紹介や友人の紹介等多岐にわたり、講演内容については、大満足63%、満足31%と大変な好評を得ていることが分かりました。(渡邊)



講演中の光景

① 「山の天気のコホン」では、山で平均風速が15m/s以上の時は気象リスクが大きく、その事は現地では、上空で風が強い証拠となるレンズ雲、傘雲やつるし雲が見られることや天気図では4hPaの等圧線の間隔が東京～名古屋の距離(約300Km)より狭いことより判断できる。

② 「最も怖い気象遭難-低体温症の事故-」



質疑応答での光景

赤十字救急法講習会

令和7年3月15日(土)・16日(日)・20日(木)

神奈川県山岳赤十字奉仕団との共催による救急法講習会を昨年引き続き日本赤十字社神奈川県支部(横浜市中区山下町)にて実施しました。但し、日程が山の天気ライブ授業と重複したため、当支部からの応募は2名(外部)となりました。(全体では30名弱が参加)

内容は基礎講習、養成講習の2本立てで前者は手当の基本とAEDを用いた心肺蘇生法などの座学・実技。後者は、急病、けがなどの座学、止血、きずの手当、骨折の手当、搬送などの座学・実技を行ないました。その後検定試験があり、当支部からの2名は基礎講習、養成講習にともに合格し、それぞれ赤十字ベーシックライフサポーター認定証、赤十字救急法救急員認定証を受領しました。(永井)

小島烏水祭に参加

令和7年4月5日(土)

四国支部主催の第13回小島烏水祭に当支部として森、中島、永井が参加しました。(長島は本部として参加)

日本山岳会初代会長小島烏水は、香川県高松で生まれた後、横浜で育ち、岡野金次郎の親友でした。そんな縁から小島烏水祭に中島、永井は初めて出席しました。



小島烏水顕彰碑

5日昼頃、高松市にある峰山公園に到着しますと小島烏水祭参加者に対し、有難いことに無料のさぬきうどんのサービスがありました。その後、小島烏水の顕彰碑の前に移動し、小島烏

水の孫の相良泰子さん、曾孫の相良嘉洋さんにご挨拶しますといよいよ碑前祭が始まりました。



岡野眞氏のスピーチ

尾野四国支部長のご挨拶から始まり、来賓のご挨拶の後、岡野金次郎の孫にあたる岡野眞氏から小島烏水と岡野金次郎の交友についてのスピーチをお聞きしました。



小島烏水碑前祭の一コマ

その後、高松市街を一望できる宴会場に移り、懇親会が行われ、参加者の親睦を一層深めることができました。四国支部の皆様には大変お世話になりました。改めて御礼申し上げます。(永井)



懇親会ステージ

岡野金次郎講演会

「孤高に生きた登山家―岡野金次郎評伝―」 出版記念講演会を開催しました

岡野金次郎（1874～1958）は、1902年に小島烏水（後に日本山岳会初代会長）とともに槍ヶ岳に登頂し、この快挙は日本人による近代登山の幕開けといわれました。また日本山岳会の設立に際し、そのきっかけを作った功労者として称えられています。神奈川支部では、岡野金次郎生誕150周年にあたる昨年（2024年）5月に全国支部懇談会開催に合わせ、岡野金次郎の顕彰碑のある平塚市湘南平で、第一回岡野金次郎碑前祭を開催いたしました。

折しも昨秋には岡野金次郎について最初の本格的な評伝「孤高に生きた登山家―岡野金次郎評伝」（山と溪谷社）が刊行されました。その著者をお迎えして、会員と神奈川県民を対象とした講演会を開催し、岡野金次郎の功績と人となりを広く紹介し、今年5月10日（土）開催の第二回岡野金次郎碑前祭と併せて、その功績に思いを馳せる機会としました。

令和7年4月27日（日）14:00～15:30
かながわ県民センター 305 会議室
講演

(1)「近代登山が開花したまち横浜と岡野金次郎」

①「横浜の歴史と岡野のルーツについて」

講師 鈴木利英子氏

「孤高に生きた登山家」共著者。平塚市在住。2011年に「平塚市人物史研究会」を有志で立ち上げ、2013年に冊子「平塚ゆかりの先人たち」（岡野金次郎も収録）を発行。地元の山岳会に所属し、国内外の山を歩いている。

岡野金次郎が横浜市岡野町（現・西区岡野一丁目・二丁目）をルーツとして活躍したこと、その地域的な背景について解説された。

②「岡野金次郎と横浜の山岳コミュニティ」

講師 鈴木遥氏

「孤高に生きた登山家」共著者。平塚市出身。2011年に平塚が舞台のノンフィクション「ミドリさんとカラクリ屋敷」（集英社文庫。第8回開高健ノンフィクション賞次点作）で作家デビューし、フリーランスとして取材・執筆を行う。

明治30年代の横浜を舞台に、岡野金次郎を

軸とした小島烏水、ウォルター・ウェストン、高野鷹蔵、武田久吉、ジェームス・ハッパーら、近代登山の先駆者たちと山好きな外国人たちが横浜で出会い、日本初の山岳会が設立された経緯、さらには小島烏水との晩年までの交流などについて解説された。

③「岡野金次郎の足取り」

講師 鈴木利英子氏

丹沢に近代登山家として初めて登った岡野金次郎は、地元神奈川でどのように過ごしたのか？横浜での生誕から終焉の地である平塚まで、神奈川県を拠点に各地を巡った登山家としての足取りを解説された。



鈴木遥氏（左）、鈴木利英子氏（右）

(2) 岡野金次郎についての補足的なお話

神奈川支部 砂田定夫会員

相模原市在住。日本山岳文化学会会員として、登山史、山に関わった人物の研究に従事。著書に「山あれば人あり―登山史に躍動した人々―」（日本山岳文化学会）。

岡野金次郎の子孫と山岳会のかかわりや、神奈川支部の前身となった横浜支部が存在したことなどについて紹介した。

参加者は50人（神奈川支部会員20人、他支部会員4人、岡野氏親族3人、その他一般23人）岡野金次郎について今回の講演で初めて知った人も多く、また明治の横浜が開港場としてだけではなく、近代登山の始まりがこの横浜にあったことを初めて知り、とても興味深く新鮮な話であったという感想も寄せられ、好評でした。

（中島）

第二回岡野金次郎碑前祭

岡野金次郎生誕 150 周年にあたる昨 2024 年 5 月 25 日に、全国支部懇談会の開催に合わせて第一回岡野金次郎碑前祭を神奈川支部の主催で開催しました。本年から開催日を 5 月第二土曜日と定め、5 月 10 日（土）午後 2 時半から湘南平で第二回岡野金次郎碑前祭を開催しました。

当日は雨の予報も伝えられましたが、雨は午前中に上がるという予報を信じて開催することになりました。風は若干強かったものの、雨は降らず 60 名の参加者を得て無事に碑前祭を終えることができました。なお、同時開催予定の高麗山・湘南平の城跡ハイキング（約半数は一般公募の参加者で、参加者は碑前祭に参加）は、コースが雨のために滑りやすくなっているため、残念ながら中止となりました。

早川副支部長の司会により進められ、主催者としての大槻支部長の挨拶に始まり、来賓として平塚市長の代理で出席された教育委員会社会教育部長の石川亜貴子様からご挨拶をいただきました。日本山岳会の桐生副会長からは、日本山岳会創立 120 周年にあたり、各地で行われている山岳祭に力を入れているところであり、岡野金次郎碑前祭はその一翼を担っていると話されました。続いて献花に移り、参加者を代表して来賓の石川部長と岡野金次郎の孫の岡野眞さんが顕彰碑に花束を献げ、岡野家ご親族で用意された生花も併せて奉納し、献花後に碑前で参加者の皆さんの記念撮影となりました。そのあと、ご親族を代表して岡野眞さんにご挨拶をいただきました。親族として自分でもいろいろ調べる機会が多くなり、祖父がいつそう身近になったと話されました。岡野眞さんは神奈川支部会員でもあります。

昨秋に刊行された「孤高に生きた登山家ー岡野金次郎評伝ー」の共著者である鈴木遥さんには、「近代登山の先駆者 岡野金次郎」という一文をこの碑前祭のパンフレットに寄稿していただいています。また、「何故湘南平に岡野金次郎の顕彰碑が建立されたのか」にポイントを置いた講話をいただきました。それまで千畳敷と呼ばれた湘南平の開発を始めたばかりの頃であり、平塚市の当時の文人市長・戸川貞雄の存在と、茅ヶ崎在住の書誌研究家・斎藤昌三の強い推薦などがあって、当時ほぼ無名であった岡野金次郎の顕彰碑が湘南平に建立されたいきさが解説され、皆様熱心に耳を傾けていました。



顕彰碑の前での記念撮影

岡野の盟友・小島烏水のご親族の方 4 名に出席いただいております、代表して曾孫の相良嘉洋さんからご挨拶いただきました。小島烏水は多才な人で、登山家だけではなく十三の顔を持つともいわれているが、その幾つかの面は岡野金次郎との交友によって育まれたものであると話され、二人の交友の掛け替えのなさを感じることができました。次いで神奈川支部会員でフルート奏者の高橋あかねさんによるフルート演奏があり、それに合わせて、神奈川県に縁の深い曲目「遙かな友に」を当日ご参加いただいた平塚合唱連盟の方々のリードによって合唱しました。神奈川支部の永井事務局長による締めの言葉で碑前祭は滞りなく終了となりました。



フルート演奏と合唱

関係者の方々、会員の皆様のご協力に心から感謝いたします。この碑前祭が平塚市民・神奈川県民の皆さん、そして支部会員に支えられたものとなるよう、次回に向け内容、実施体制ともに一層の充実・強化を図っていききたいと思います。よろしく願いいたします。（中島）

講演会

「登ること」と「書くこと」と ～大学山岳部からライターに～

令和7年5月24日(土)13:30～14:45
かながわ県民センター 604 会議室

支部総会の前に昨年度当支部会員になられた谷山宏典会員に上記テーマでお話して頂きました。

谷山会員は1979年愛知県生まれ。明治大学文学部卒業。大学在学中に体育会山岳部に所属し、卒業後の2001年には明大隊の一員としてガッシャーブルム1峰(8068m)と同2峰(8035m)に登頂。その後、編集プロダクション勤務を経て2009年フリーのライターになられ、現在、雑誌やウェブサイトでの記事執筆、単行本のブックライティングなど、幅広く活動されている方です。

当日は、パワーポイントによる説明で、大学時代の年間70日の合宿、大学3年の時の梅海新道白馬縦走(厳冬期)等の経験、そして山岳部4年間を経た者は8000mの極地でも通用するという遠征隊長の言葉など、大変興味深い体験を聞かせて戴きました。また質疑応答も活発に行われ、有意義なひと時となりました。(永井)



谷山宏典会員

イベント事前情報

日本山岳会創立120周年式典・年次晩餐会

日時：12月6日(土)
場所：京王プラザホテル(新宿)

12:30 受付開始

○記念講演会(13時～)

「1924年英国エベレスト隊のG・マロリー遺体遺品発見調査」ヨッヘン・ヘムレブ
「日本山岳会とヒマラヤ登山」(仮称)

○記念式典(16時30分～17時30分)

秩父宮山岳賞授与、新永年会員紹介、新入会員紹介など

○祝賀晩餐会(18時～20時30分)

○展示会(13時～) 120周年記念各プロジェクトによる活動展示

○記念山行 令和7年12月7日(日)高尾山(薬王院)

※先行発表ですので若干の変更がありえます。

※案内と詳細は「山」10月号に掲載予定です。

古道シリーズ

相州大山道を歩く

—大山道標を巡る旅—

葉上徹郎

【3—3】柏尾道を歩く（2日目前半）

《歩程》小田急江ノ島線「長後」駅西口～いすゞ自動車正門前～用田辻（7.4km）

2日目は、小田急江ノ島線「長後駅」西口からJR相模線「門沢橋」駅付近の「戸田の渡し跡」まで歩く。長後駅西口の北側に、交差点があり、道路（長後725号線）を渡ると「仙元塚」がある。説明書によると、宝永4年（1707年）富士宝永大噴火により降り注いだ火山灰により築造したものとのことだ。仙元塚から725号線を西方向へ5分程歩くと「長後市民センター」がある。敷地左側には多くの石造物がきれいに保存されており、石造物の説明板が2基掲げら



《8 石造物群》

れている。ここには、道標をはじめとする石造物が数多く集められており、《写真8》珍しい「しょけら」をぶら下げた青面金剛の庚申塔もある。

様々な道標と説明板を読み比べていると時間が経つのを忘れてしまう。

市民センターを後にし、725号線を数分歩くと「県営住宅」がある交差点に着く。斜め左へ入る果樹園横の細い道が柏尾道旧道である。ここを進むと引地川に突き当たる。以前、ここに六会橋があったというが今はない。また、付近に道標もあったようであるが見当たらない。やむなく右に曲がり、再び725号線に出て左折。新しい六会橋を渡ると大きな交差点近くに出る。県道22号線に出て1～2分で「いすゞ自動車藤沢工場正門」前である。旧家「峯尾家

の長屋門前を進むと民家の塀の角に三基の道標を兼ねた庚申塔がある。《写真9》左は文字の庚申塔、中央は不動明王、右側は青面金剛の庚申塔である。庚申塔は道標を兼ねており、「かしを道」や「大山道」などの文字を見ることができる。マンホールの上に置かれている地藏菩薩、スズキ自動車販売店西側の青面金剛と思われる庚申塔を過ぎると県道43号線（藤沢座間



《9 道標》

厚木線）と交差する「新山田」交差点を越える。左先の「西松屋」先で県道22号線バイパスと別れ、斜め左へ（22号線）

入る。「葛原」交差点を過ぎ、擁壁下の道祖神を過ぎると数分で「宮の腰地藏」がある。左は、「豊受大神」である。

この先、20分程、御所見小学校まで工場が並ぶ単調な道を歩くと県道43号線（藤沢厚木線）との合流点である交差点手前の歩道橋の下に庚申塔がある。この道標は、青面金剛の庚申塔であり、右側面には、「従是ふじさわ江のしまみち」左側面には「元禄十五年 従是かしをとつかへのみち」とある。

この先、右に稲荷神社を見送るとかつて宿があった用田の辻（用田の交差点）に出る。中原



《10 道標》

街道との交差点である。交差点を渡った左に大山不動を乗せた道標ともう一つ道標がある。正面には「右大山道」と刻まれている。《写真10》さあ、いよいよ相模川に向かおう。（つづく）

山行報告(支部山行)

小沢天神山城・櫛形山

城跡ハイキング

令和7年1月11日(土) 晴

2024年度4回目の城跡ハイキングです。今回は川崎市にある小沢(天神山)城、櫛形山です。小沢城は川崎市多摩区と東京都稲城市にまたがり、南北朝騒乱期から戦国期にかけて天然の要害を利用した邸館的な性格を示す城として貴重な存在と言われ、櫛形山は生田緑地の一角にあり、明確な城郭遺構は残っていませんが、陣地や臨時的な城砦として利用されたものと思われます。

京王線京王よみうりランド駅に午前10時集合。歩道に巨人軍の選手の手形が埋め込まれた道をグラントに向かってしばし歩いて途中から小沢城への近道に入りました。5分程で城跡の石碑のある富士塚に着きました。そこから堀切の遺構を越えて天神山に登り、尾根伝いに最高点である浅間山(90m)に到着しました。北東側の樹木が伐採されて素晴らしい眺望が開けていました。北側は多摩川の支流に向かっての急斜面で、天然の要害となっています。山頂の南側直下に小広い主郭があり、そこで休憩を取りました。主郭の西と南には一段低い曲輪が続いています。11時15分に主郭を後にし東の尾根を下り、水路沿いの住宅街の一角に出て、そこからJR南部線稲田堤駅に向かい、11時45分に到着。登戸駅で小田急線に乗り換え、一駅目の向ヶ丘遊園駅で下車(12時4分)。



小沢城址

駅から10分程で櫛形山の登り口に着き、そこからは急な階段の登りとなります。横穴の遺跡を見たあとは黙々とひたすら登り、かなり疲れてき

たところで13時40分櫛形山に到着しました。山頂部は100m四方程の広さがあり、その一角にエレベーター付の展望台があります。ここで昼食休憩となりました。まずは眺めの良いうちにと展望台に登りました。素晴らしい眺望です。東京スカイツリー、東京タワー、新宿副都心、筑波山、日光男体山、赤城山、そして富士山。冬の澄んだ空のおかげです。昼食を取り最後に記念撮影。



東京スカイツリーを望む

帰りは北側の道を降りました。急坂とはいえほとんど舗装路で、行きの急階段は何だったのかと突っ込みたくなるような歩きやすい道です。坂の途中にあるこの地域のかつての領主である稲毛氏の菩提寺・廣福寺と稲毛一族の立派な墓を参詣して往時に思いを馳せたのち、坂を下って線路沿いを東に進み、14時40分向ヶ丘遊園駅に到着し解散となりました。

参加者の多くにとって2025年の初ハイキングであったと思われるこの日は、天気も良く、素晴らしい眺望に出会えて、新年のスタートとしては上々であったと思います。(中島)



櫛形山山頂にて

<行程>

京王よみうりランド駅 10:05~10:25 小沢城(見学) 11:15~11:45 南武線稲田堤駅 11:52 ~ 11:56 登戸駅 12:03~12:04 向ヶ丘遊園駅 12:10

～12:35 榊形山(見学・昼食)13:50～(廣福寺經由)～14:40 向ヶ丘遊園駅

<参加者>

会員：堀江、高井、丸山、関口、森、細川、国清、込田、渡邊、砂田、中島 11名

一般応募者：11名

弘法大師と桜のみち

関東ふれあいの道

令和7年2月1日(土) 晴

関東ふれあいの道9として、今回は、前回のゴールだった南平橋をスタートします。北上していき、住宅街を抜け、小さな社がある白山神社を参拝します。

その後、斜面を登り続け、車道を進んだ後、右折して権現山に向かいます。

権現山では頂上の展望台に上がってみますが、残念ながら富士山は雲に隠れて見えませんでした。

権現山から馬場道を経由し、弘法山に到着。ここには新しい展望デッキができていました。



新しくできた展望デッキにて

ここから東に下っていき、飲料自動販売機のある所で登山道から離れ、舗装路を北上します。国道246号線にぶつくと右折し、新善波隧道に入ります。隧道を出たら下り坂を少し進んだ後、右折します。細い未舗装路を進むと国道246号線と並行して道が続きます。ここは、いかにも矢倉沢往還という旧道らしい道で趣がありました。

舗装路に出たら、右折して再び尾根を登ります。吾妻山にて小休止した後、東へと下っていきます。関東ふれあいの道のコースは、この先、鶴巻温泉に向かわず、途中で左に向かい、住宅

街を進みます。車道に出たらゴールの坪ノ内バス停に到着しました。(永井)



旧道(矢倉沢往還)を歩く

<行程>

秦野駅北口 9:05=(バス)=9:17 南平橋バス停
9:31～10:19 白山神社 10:24～10:36 浅間山入口～10:47 権現山 11:05～11:26 弘法山(ランチ)12:00～12:32R246 トンネル入口～12:38 旧道(矢倉沢往還)分岐点～13:09 吾妻山分岐点～13:37 吾妻山 13:50～14:16 坪ノ内バス停
14:19=(バス)=14:43 伊勢原駅北口

<参加者>

支部会員：葉上、稲垣、関口、大字、丸山、野田(弘法山まで)、森(静)、高井(紀)、永井の計9名

一般応募者：2名

皇居一周探鳥会

自然観察会

令和7年2月15日(土) 晴

今回の自然観察会は、皇居東御苑から内濠をほぼ一周して、野鳥や水鳥に加え春先の花を観察することです。

東京メトロD-2出口に10:30に集合。集合場所のすぐわきのお濠にコブハクチョウが泳いでいて、その上をユリカモメが飛んでいました。集合場所を後にし、内濠の異櫓から大手門に向かいますが、この間に、オオバン、キンクロハジロ、マガモのつがいが見られました。

大手門から東御苑に入りますが、大手門の頑丈さに感心し、同心番所や百人番所を通り、二の丸雑木林ぬけて、二の丸庭園の池に着きます。池で水鳥を探しますが、ハシブトカラサやヒヨドリが飛んでいるだけでした。池を後にし、都道府県の木展示場所にある木々を確認しながら進み、梅

林坂方面へ向かいます。白梅、紅梅が70本ほど植えられていて、大部分の木が満開の見ごろになっていました。宮内庁書陵部庁舎の前を通り、天守台を右手に見て、大奥跡がある本丸大芝広場のカンザクラを見ながら昼食休憩としました。

午後の部の最初は、江戸城天守復元模型を見てから、かつて食用として栽培されていた古い品種の果樹が植えられた果樹古品種園を通り、富士見櫓がまじかに見える所に行きました。富士見櫓は、天守の代用としても使用されていました。その後、松の大廊下跡では、浅野内匠頭と吉良上野介の刃傷事件を偲びました。富士見多聞（多聞とは長屋づくりの防御施設）、石室（石でできた防火倉庫）、珍しい竹が植えられた竹林をみて、いよいよ天守台に登りました。天守台は、三度の大火の後、天守は不要との結論がくだされ、天守が立てられないままになりました。

東御苑を北桔（きたはね）橋門から出て、いよいよ内濠のお濠巡りが始まります。代官町通りの千鳥ヶ淵寄りの遊歩道を歩き、水鳥を探しますが千鳥ヶ淵の真ん中を通る首都高の騒音のためか少なく、淵の岸にカワウが見られるだけでした。半蔵濠に出ると、ヨシガモの雄と雌の群れ、カイツブリのつがい、カルガモのファミリー（オス、メスと子ども）の群れが目につきます。半蔵門への通りを渡り桜田濠に向かうと、アオサギ、コサギ、コガモがいて、数多くの水鳥の群れの中に、ヒドリガモのつがいやホシハジロのつがいが見つかりました。進むにつれて、水鳥たちが後方にあることになるのですが、何かに驚き、一斉に水鳥たちが飛び立ち、また、我々の前に出現するという光景になりました。百羽近くが集まったようです。桜田門に入り、二重橋前を通り、楠正成像前で、本日の鳥合わせ（探鳥会では、本日見た鳥を互いに確認する）を行い、本日の探鳥会を終了しました。（渡邊）



集合後、大手門に向かう

<付記>

観察した水鳥：コブハクチョウ、ユリカモメ、オオバン、キンクロハジロ、マガモ、カワウ、ヨシ

ガモ、カイツブリ、カルガモ、アオサギ、コサギ、コガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、スズガモなど15種

野鳥：ドバト、メジロ、シジュウカラ、スズメ、ハシブトカラス、ヒヨドリ、ジョウビタキ、キジバトなど8種

春先の花：ロウバイ、ソシンロウバイ、ウメ（白、紅）、ウグイスガグラ、カンザクラ、スイセン、マンサク、オオイヌノフグリなど8種

<行程>

メトロ大手町 D-2 出口 10：30-和田倉噴水公園 10：40-大手門 11：00-東御苑（苑内散策・観察、昼食）-北桔橋門 13：30-代官町土手遊歩道-半蔵門-桜田門-二重橋前-楠正成像前鳥合わせ後 15：30 解散

<参加者>

高井（延）、堀江、丸山、込田（伸）、込田（千）、大字、細川、永井、関口、國清、森、高井（紀）、黒沼（他支部）、渡邊 14 名

衣笠城・怒田城

城跡ハイキング

令和7年3月8日（土） 曇

2024年度5回目の城跡ハイキングです。今回は横須賀市にある衣笠城、怒田城です。衣笠城は三浦一族の居城で、源頼朝が挙兵した時に、川の増水で石橋山の戦いに間に合わなかった三浦氏が、畠山重忠軍を迎え撃った衣笠合戦で知られ、怒田城は三浦水軍の拠点と考えられています。

JR 衣笠駅に午前10時集合。駅から徒歩で衣笠城に向かいます。本通りから一本内側の下町情緒あふれる商店街を進み、衣笠十字路を渡り大矢部方面に向かいます。途中の左手高台のマンション裏手に小谷部城の遺構がありますが立ち入れません。雨がぽつぽつと来ましたが降り続くことはなく、やがてトンネルを抜けると衣笠城址バス停に到着。その先の交差点を右折し、またトンネルを抜けて横浜横須賀道路衣笠インター出入口のひとつ先の信号を渡り、衣笠城追手口の小さな石碑を右に見て、しばらくは緩い坂道となりますが、三浦一族の菩提寺・大善寺に近づくにつれ今日一番の急坂となります。大善寺の左手の階段を登り、さらに奥に進むと広く開けた緩い斜面地に着きます（11:05）。ここが衣笠城の主郭と言われ、西北の一段高い頂上部には「物見岩」と呼ばれる大岩がありますが、周囲の樹木にさえぎられて眺望はありません。

ここでゆっくりと昼食休憩をとります。衣笠城には明確な城跡遺構は確認できません。当時は、平時においては谷の奥にある居館に居住し、一旦、事が起これば裏山の寺院など信仰対象のある領域に若干の防備を施して立て籠るという形態が見られるので、衣笠城もそれに当たるのではないかと思います。



衣笠城跡にて

11 時 45 分に衣笠城を後にし、源頼朝が三浦合戦で城を枕に討ち死にして源氏再興の礎となった三浦義明に深い恩義を感じ、その菩提を弔うために創建した満昌寺とその奥にある義明の墓所を参詣しました。その後、衣笠城址バス停からバスに乗り、衣笠で横須賀線に乗り継ぎ、終点久里浜駅で下車し怒田城に向かいました。



怒田城跡にて

「吉井貝塚遺跡」として知られる比高 20m の丘陵が怒田城跡で、西側の先端部分は戦時中に線路敷設によって削られ、北西側に接続していた同規模の丘陵は開発によって消滅しました。消滅部分に主郭があったと推定されています。久里浜の入り江が深く入り込んでいた当時は、この城は入り江の東岸に突き出た小半島で、房総半島と三浦との水上交通の要所にあり、三浦一族の水軍の根拠地であったと考えられ、付近には「舟倉」の地

名が残っています。時折小雨や雪が舞う天気も最後には日が差し、最高の フィナーレとなりました。午後 2 時 45 分に JR 久里浜駅にて解散。解散後の懇親会は 16 名が参加し、大いに交流を深めました。

(中島)

<行程>

JR 衣笠駅 10:00~11:05 衣笠城(見学・昼食) 11:45~12:20 満昌寺(三浦義明墓) 12:50~13:00 衣笠城址バス停 13:12~(バス)~13:16 衣笠十字路~13:26 衣笠駅 13:30~(JR 横須賀線)~13:35 久里浜駅 13:45~14:00 怒田城 14:30~14:45 久里浜駅

<参加者>

会員：大字、丸山、高井、黒沼、森、打矢 北川
関口、込田、渡邊、砂田、中島 …12 名

一般応募者：12 名

太田道灌・日向薬師のみち

関東ふれあいの道

令和 7 年 4 月 12 日(土) 晴

今回は、前回のゴール坪ノ内バス停がスタートです。鶴巻温泉駅からバスに乗り、下車した後、歩き始めます。

国道 246 号線を渡ると、関東ふれあいの道の案内板を見かけます。その後、国道から離れ、北側の細い道に入ります。畑と民家の長閑な風景を味わった後は、梨畑に広がった白い花に目を奪われたりします。

やがて少し高台を登りますと左手に大山頂上が見えました。下り道になり、三之宮比々多神社に近づきますとまだ桜が咲いており花見にギリギリ間に合ったという感じでした。

舗装路を歩き、途中、大山道の石柱と千石堰用水路を見学します。この道は東海道戸塚からの大山道と江戸青山からの大山道が下糟屋宿で合流した大山参詣道との事でした。

続いて太田道灌の胴塚を見学します。住宅街の中にあるので、ちょっと雰囲気がアンマッチのような気がします。以前のパネル説明板を見ると胴塚の上には屋根がついていたようですが、現在は、屋根が消えてました。

上粕屋神社にてランチタイムとします。ここは、イチョウの大木その他、ケヤキの大木が多く、神社の長い歴史を物語っていました。

この先は、新東名の伊勢原大山 IC 工事のため、関東ふれあいの道は迂回路が用意されました。御伊勢の森バス停にて迂回路が終わり、高部屋小学校から先、日向薬師行きのバス道路

を進みます。退屈なバス通り歩きだと思いましたが、次々と果物や野菜の無人販売所が現れ、メンバーはそれが楽しみとなり、車道歩きに飽きることなく、ゴールの日向薬師バス停に到着しました。

(永井)

<行程>

鶴巻温泉駅 8:50=(バス)=8:56 坪ノ内バス停
8:58~9:31 長福寺 9:38~9:44 坪ノ内観音谷戸
の道祖神 9:47~10:06 三之宮比々多神社 10:21
~10:52 大山道石柱 10:54~10:57 七人塚~
11:02 太田道灌の墓 11:07~11:10 洞昌院 11:13
~11:22 上粕屋神社(ランチ) 12:06~12:57 鎧塚
13:12~13:58 日向薬師バス停 14:25=(バス)
=14:16 伊勢原駅(解散)

<参加者>

支部会員：稲垣、丸山、関口、森(武)、森(静)、
高井(紀)、永井の計7名

一般応募者：2名



上粕屋神社にて

八菅山と鳶尾山

自然観察会

令和7年4月26日(土) 曇

八菅山(225m)いこいの森から、鳶尾山(234m)へとハイキングし、周辺の木々や野草を観察しました。10時に本厚木駅に集合し、上三増行きのバスに乗り、一本杉バス停で下車し、観察会の開始です。

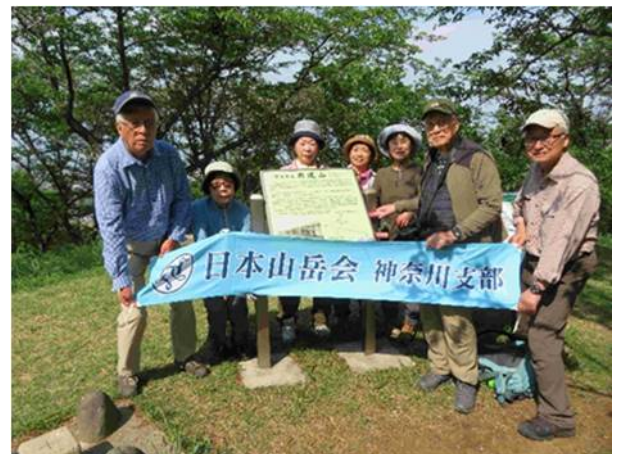
八菅大橋、八菅橋と渡ると八菅山いこいの森の入口となり、ウラシマソウ、オドリコソウ、シラユキゲシなどの野草が咲く中坂道を進むと、八菅神社の鳥居となり右わきの芭蕉の句碑をみて、神社の森に入っていきます。この森はいこいも森の一つのゾーンで八菅神社の社叢林です。早速、樹齢300年のケヤキが見られ、スダジイの大木の中を女坂を進んでいき階段を上ると神社の本殿に

出ます。拝礼し裏手に回り進むと第二のゾーンのお花見広場に着きます。各種のアスレチックの遊具がある一角で昼食としました。

昼食後、第3のゾーンのやすらぎ広場、第4の展望台広場と進みます。展望台からの眺めは、雲が多くかすんでいて、横浜のランドマークタワーが何とか見えるような感じでした。ここで折り返して、第5のゾーンのみずとみどりの青空博物館への坂道を下る途中にジュウニヒトエの群生やミヤマナルコユリを見つけ、白い小さな花を付けたツボスミレが咲く中、芝生広場に着きました。

一息入れて、鳶尾山に向かいます。坂道の登りになります。ウツギやミツバウツギが咲く中、ハナイカダの雌花を少し離れて雄花を見つけ、路肩にイチリンソウの群落がありました。坂道を登り詰めると、鳶尾山への分岐点のやなみ峠になります。

ここからフジの花や花が咲き終わった桜並木を見ながら登ること十数分、一等三角点のある鳶尾山頂上に着きます。日本最古の一等三角点の一つであり、ここで集合写真を撮りました。



鳶尾山頂上

しばし休憩後、鳶尾山展望台を目指し、下山開始です。下り道で、本日キンランを何回か見ましたが、ひときわ立派なキンランを見つけました。鞍部に出て、もう一登りで鳶尾山展望台に出ます。ここは、小鳶尾山とも言われ、八菅山展望台よりもずっと高い螺旋階段を登る展望台があります。眺望を期待して登ります。先ほどより、ランドマークタワーがよりよく見えましたが、スカイツリーや東京タワーは視認できませんでした。ここから20分ほど下ると、天覧台の鳶尾山ハイキングコースの入口に出ます。鳶尾団地バス停から本厚木に向かい、本日の観察会は終了となりました。

(渡邊)

<付記>

観察した主な動植物

樹木：フジの花、アカメガシワの新芽、ミズキの

花、樹齢300年のケヤキ、スダジイの大木、タイワンフウの実、ハウノキの花、シロダモの新芽、ニガイチゴの実、コクサギ、ウツギ、ミツバウツギ、コゴメウツギ、ハナイカダ（雄花、雌花）、コバノガマズミなど

草木：ムラサキハナナ、ウラシマソウ、ハナニラ、カキドウシ、オドリコソウ、クサノオ、シラユキゲシ、セリバヒエンソウ、キンラン、ニガナ、ジュウニヒトエ、ミヤマナルコユリ、ツボスミレ、イチリンソウ、シャガ、カンアオイ、チゴユリ、ヘビイチゴなど

野鳥：カワラヒワ、ウグイス、シジュウガラ、ガビチョウ、メジロ、ヤマガラ、オオルリなど



キンラン

<行程>

小田急線本厚木駅 10:00 集合後厚木バスセンター⑩番乗り場へ移動 BS10:15（上三増行）一本松 10:50-八菅神社本殿 11:55-12:05 お花見広場（昼）12:40-やすらぎ広場 12:45-展望台広場 12:50-（下り階段）13:10-みずとみどりの青空博物館 13:30-鳶尾山（一等三角点）14:30-鳶尾山展望台 15:15-15:50 鳶尾団地バス停 15:59-本厚木駅 16:30頃 着後解散

<参加者>

森（武）、森（静）、込田、大字、細川、関口、國清、渡邊の計8名

山菜採り・飯縄山

支部山行委員会

令和7年5月17日（土）・18日（日） 雨・晴

妙高赤倉の宿泊施設ユアーズインをベースにした山行を今回実施。当初は初日に飯縄山登山、2日目に山菜採りを予定していたが、長野駅に着いたら、ザーザー降りの雨。ということで順番を逆にし、初日は観光と山菜採

り、2日目を登山とした。

まず長野駅から宿の車で戸隠森林植物園を訪問。傘を差しながら木道を歩き、ちょうど見頃のミズバショウ群落を見物する。



ミズバショウ見物

昼食の蕎麦屋を出たら雨が止み、ユアーズインに到着した頃には青空が見えてきた。但し風が強い。その状況下でユアーズイン周辺の山菜採りを行なった。

翌日は快晴となり出発前に記念撮影。



ユアーズイン前にて妙高山をバックに

戸隠スキー場中社ゲレンデ駐車場にて車から降り、西登山口から樹林帯の中の登山道を進む。色鮮やかな新緑が眩しい。

萱ノ宮を過ぎると斜度が急になってきた。やがて右手に一の鳥居登山口からの道が合流する。周囲は笹原となり、視界が広がる。9合目の標柱が立っている小ピークを越えて飯縄山頂上に到着した。

その後、瑠璃山に登り、スキー場のゲレンデ斜面を下っていくが、よく見ると前方ゲレンデの先に1頭の黒い動物を見る。その動物はゲレンデを横断し、樹林に消えていった。歩く姿から見て熊という結論となった。

熊が横断した辺りを通過する際、正面にひと

際高い、雪をつけた高妻山の雄姿が目に入る。頂上手前から急斜面となっていて簡単には登れないぞと主張しているようだ。

ゲレンデ下りを終えると再び樹林帯となり、やがて出発時の駐車場の前に出てきた。(永井)



飯縄山頂上にて



熊がゲレンデを横断

<行程>

<1 日目>長野駅 8:16～9:24 戸隠森林植物園 11:31～11:34 蕎麦屋(そばの実) 12:20～13:07 ユアーズイン(泊)

<2 日目>ユアーズイン 8:04～戸隠スキー場中社ゲレンデ駐車場 9:08～9:23 西登山口～10:17 萱ノ宮～11:51 一の鳥居分岐点～12:30 飯縄山 13:02～14:11 瑠璃山 14:23～<ゲレンデ>～14:53 ゲレンデ分岐点～<水路沿いの道>～16:00 戸隠スキー場中社ゲレンデ駐車場

<参加者>

支部員：大槻、森(武)、小笠原、関口、丸山、森(静)、稲垣、大字、長谷川、永井の計 10 名
支部外会員：吉田

舞岡公園

自然観察会

令和 7 年 6 月 7 日(土) 晴

今回の自然観察会は、横浜市戸塚区にある舞岡公園です。広さは東京ドーム 6 個分強の 28.5 ヘクタールあり、起伏にとんだ丘陵地にあります。四週続いた土曜日雨から抜け出し、晴天の下で実施できました。

東海道線戸塚駅で集合し、集合場所頭上にはツバメの巣があり、親鳥が餌をせっせと運んでいました。バスに乗換、舞岡公園に向かいます。

下車して数分で公園に入ります。入ってすぐのけやき広場で、自己紹介後、観察会開始です。早速、イヌシデの雄花が垂れ下がっているのが観察でき、イロハモミジに囲まれたもみじ休憩所を通り、ばらの丸の丘に出ますが、見回してもバラは見つかりません。

この丘から下り、宮田池とさくらなみ池の間を通り、これらの池を源流とする舞岡川沿いの小川沿いの小径(舞岡町小川アメニティ)へ入ります。この小径は公園からいったん出ることになりますが、ニワトコ、ヌルデ、ユキノシタの白い花をみながら進み、そして瓜久保の家がある公園内にまた入ります。

この家は休憩所でもあり、周辺には田んぼがあり、田園風景が広がっています。ガクアジサイが咲く中、かつば池の畔通り階段の登り道を進むと、赤い実をたわわに付けたオニシバリ(ナツボウズ)が観察出来て、前田の丘へと向かいます。花を落としたヤマブキの顎だけが残るまるで別の花のようになります。丘に登りきるとくぬぎ休憩所となり、ここで昼食タイムとしました。

昼食後は、さっきのかつば池へと下ります。かつば池の謂れは分かりませんが、池沿いにはかつばが相撲を取っている像がありました。みずき休憩所を上り下りの途中、タイワンリスが森の中へと消えていく姿が見え、狐久保の草原に出ます。奥に何か石像が見えるので、オニグルミの実がこぼれる中を近寄ってみますと一対の狐のモニュメントでした。ここから、中丸の丘の上り下りとなり、公園の小さな展示小屋と水車小屋を見て、小谷戸の里に入ります。

ここ小谷戸の里は、明治時代の古民家が保存されており、民家の中を見学することができ、土間では薪でご飯が炊かれたりしていて、薪を燃やした匂いが残っていました。古民家の前で集合写真を撮りました。



古民家の前で

古民家の隣の庭には、ロウバイとクロバナロウバイが並んで植えられていて、実の違いが分かりました。



ロウバイ



クロバナロウバイ

小谷戸の里を出て、体験で田植えを終えたばかり田んぼを見ながら進んでいくと、木から大きく垂れ下がったツルマサキが白い花を付けていて、ウツギは花が咲き終わり実を多くつけていました。するとアオダイショウ(この日二度目の出現)が道を横切り先頭を歩いていた女性が大声をあげて、その声の方がビックリしました。そろそろ公園の出口の南門近くになると、真夏には赤い実をつけるサンゴジュが今は青い実となっていました。この実を見上げているとホトトギスが頭上を通過していきました。南門を出て、テイカカズラやツワブキをみながら進むと、戸塚に向かうバス停に着き、本日の観察会は終了となりました。
＜付記＞

観察した主な動植物

樹木：ケヤキ、イヌシデ、クワノキ、サクラ（サクランボ）、ムラサキシキブ、ヒイラギナンテン、リョウブ、キブシ、ミズキ、イロハカエデ、コウゾ、スイカズラ、ヒトツバハギ、イヌビワ、ニワトコ、ヌルデ、アンズ、ウメ、ハリギリ、ガクアジサイ、ヤマボウシ、オニシバリ（ナツボウズ）、ヤマブキ、クヌギ、コブシ、オニグルミ、ネムノキ、アメリカマンサク、マユミ、エノキ、カキノキ、アカメガシワ、ロウバイ、クロバナロウバイ、ウツギ、ニシキウツギ、サルトリイバラ、ヤブツバキ、ツルマサキ、サンゴジュ、テイカカズラ、ノウゼンカズラなど 40 数種

野草：ニワゼキショウ、ムラサキカタバミ、ドク

ダミ、ヒメジオン、ツユクサ、ヒモツケソウ、ホタルブクロ、ツワブキなど 8 種

野鳥：ツバメ（巣とヒナ、親鳥）、ウグイス、ガビチョウ、コジュケイ、ホトトギス、ハシブトカラス、ハシボソカラスなど 7 種

蝶：ヤマトシジミ、シオカラトンボ、スジクロシロチョウ、キチョウなど 4 種

他動物：ウシガエル、アオダイショウ、タイワンリスなど
(渡邊記)

＜行程＞

10:00JR 東海道線戸塚駅改札口集合-戸塚駅東口
10:16- (江ノ電バス) -京急ニュータウン 10:33-
けやき広場 (出発準備 10:50-ばらの丸の丘-舞岡町小川アメニティ-瓜久保-11:55 前田の丘・くぬぎ休憩所 (昼食) 12:30-狐久保-中丸の丘-小谷戸の里-長久保-南の丘-京急ニュータウンバス停 14:53-JR 戸塚駅 15:15 解散

＜参加者＞

堀江、丸山、大字、森、東山 (一)、東山 (左)、中村、高井、廣島、関口、打矢、渡邊の 12 名

山行報告(個人山行)

由布岳・鶴見岳

国東半島/両子山(ふたごやま)

個人山行

令和 7 年 4 月 24 日(木)～27(日)

日本山岳会 120 周年記念事業の一環として「山岳古道集中山行 2025in 国東半島」が計画された。私が 19 歳の春に訪れた大分の山々。懐かしさを感じ参加することにした。どうせだったらと前々から気になっていた由布岳の登山にもチャレンジすることとなった。

4 月 24 日(木)

羽田空港 07:50 発の便で大分へ向かう。別府駅まではバスで移動、宿泊予定のアパホテルに荷物を預けて街探検。初別府なので定番の温泉、公衆浴場に行こう。風呂マップをもらい検討、竹瓦温泉を訪ねた。風情たっぷりの建屋にレトロたっぷりの湯舟は熱いが、風呂マナーの注意書きも意識し静かに入浴した。その後は裏道を行ったり来たり、初めての土地を体感した。

4 月 25 日(金)

別府駅から 7:37 発の湯布院行バスで正面登山口まで移動。ドーム型由布岳が大きい。8:25 出発。広い草原をひたすら上るが慣れない体で息が弾む。高度をどんどん稼げるのが励みだ。飯盛ヶ

城と呼ばれる小ピークに上がる。湯布院温泉の街が足元に広がる。ここからは部分的手足も使う登り。マタエと呼ばれる山頂外輪山鞍部でおやつを口にする。左の西峰への稜線を攀じる人が見える。岩稜で険しい。西峰には三角点があるので迷ったが、右の東峰のルートを進む。東峰を超えると段差の大きい下りになる。足が届かないので、両手を使ったりしながらグングン下る。岩にはアイゼンの爪痕が多くついている。積雪期にも歩かれているようだ。外輪山から日向岳分岐方面に進む。傾斜の強い岩壁にロープや鎖をついた箇所が次々現れる。滑れば捻挫や骨折、単独なので特に慎重に進む。岩場に慣れていないと通過に時間がかかりそうだ。日向岳分岐から東登山口まではゆるやかな疎林のルート。ところがどちらの方向にも行けそうでルートファインディングは赤テープ頼りになる。

東登山口で一旦車道に出るが、ここからは鶴見岳の西登山口に接続する。林道を詰め白い砂防ダムを乗り越え、豪雨で荒れた急な沢を詰めてゆく。疲れも溜まってきつい。稜線の「馬の背」に上がると鶴見岳山頂の一角。40分ほどで観光客の多い鶴見岳山頂に到着(13:38)。2座歩いた、下りはロープウェイを利用し5分でバス通りまで降りてしまった。

4月26日(土)

2泊したホテルをチェックアウトし大分空港に向かう。係りの山岳会MCCの方、この日到着した皆さんとバスで移動。天念寺、川中不動を見学する。静かで素朴な日本の原風景を感じる。長安寺に移動し今回の全参加者と合流、野外で展望を楽しみながらのランチだ。ここからの展望もなぜか懐かしさを感じるのだ。日本の懐かしい空間、空気、風景、風、日差し・・・

両子寺に移動、荒れた林道をたどり両子山に登る。国東半島の地形と海と沖の姫島が眼下だ。来てよかった、みな笑顔だ、いいところだ。展望檜からの記念撮影は賑々しかった。

下山後はバイグラウンド国東での懇親会。どんな方と出会えるだろうか。

4月27日(日)

最終日は宇佐神社観光。日本四万以上ある八幡社の総本社のこと。すっかり観光者になって楽しむ。登山から旅先の名所めぐりと贅沢な旅となった。帰宅後も、山岳信仰と天台系修験、六郷満山文化をあらためて学びつつ余韻を楽しもう。

(大槻)

役員会報告

12月役員会

日時：令和6年12月18日(木):19:00~20:05

場所：かながわ県民センター709会議室

出席者：永井事務局長、中島、長島、森

オンラインでの参加：大槻、早川、落合、渡邊
委任状による出席：出江、葉上、柴山、込田、廣岡

[報告事項]

(1)山行報告

・関東ふれあいの道 12/1 に二宮駅南口＝(バス)＝月京バス停～東の池～鷹取山神社～鷹取山～湘南平分岐点～路傍休憩地(昼食)～妙円寺(土屋銭洗い弁財天)～神奈川大学交差点(コンビニ)～土屋一族の墓～南平橋バス停＝(バス)＝秦野駅を実施。参加者は10名(内3名は非会員)。

・12/8の晩餐会山行は、千葉の鋸山で実施。当支部からの参加者は3名。全体で40名弱。

・山行委員会主催で、12/15に伊勢原駅北口＝(バス)＝日向薬師BS～学習センター～日向越(雷峠)～見晴台～阿夫利神社下社～大山ケーブル下駅～ねぎし旅館(昼食)～大山ケーブルBS＝(バス)＝伊勢原駅北口を実施。昼食は地元の有名料理で忘年会を実施。参加希望者は14名(内4名は昼食会のみ参加)。

[審議事項]

(1)年間計画

・今後の予定を確認した。

(2)山行計画

・城跡ハイキングとして、1/11に京王線京王よみうりランド駅～小沢城(見学・昼食)～JR稲田堤駅＝(南武線)＝登戸駅＝(小田急線)＝向ヶ丘遊園駅～榊形山～向ヶ丘遊園駅を実施予定。現時点での参加希望者は6名。

・関東ふれあいの道 2/1に秦野駅北口＝(バス)＝南平橋バス停～白山神社～浅間山入口～権現山～弘法山～R246トンネル入口～旧道(矢倉沢往還)分岐点～吾妻山分岐点～吾妻山～坪ノ内バス停～関東ふれあいの道案内板～坪ノ内バス停＝(バス)＝鶴巻温泉駅または伊勢原駅北口)を実施予定。

・自然観察会として、2/15に東京メトロ大手町駅～和田倉噴水公園～大手門～東御苑(苑内散策・観察、昼食)～北桔橋門～(代官町土手遊歩道)～半蔵門～桜田門～皇居外苑～楠正成像を実施予定。

・3/15・16に実施予定の「山の天気ライブ授業」の参加希望者は、現時点で3/15の座学が30名、3/16の現地講習が23名。さらに広報に努める。

(3) その他

- ・中島より、4/27 に実施する岡野金次郎の評伝「孤高の登山家」の出版記念講演会の詳細について説明があり、了承された。なお、当日は本の販売も行う。
- ・大槻より、静岡支部の出利葉会員が中心となって企画しているカラコルムバルトロ氷河トレッキングの紹介があった。
- ・中島より、5/10 開催の第2回「岡野金次郎碑前祭」に関して、名義後援の手続きを進めている旨の報告があった。

1 月役員会

日時：令和7年1月16日(水):19:00~20:25

場所：かながわ県民センター709 会議室

出席者：永井事務局長、込田、葉上、中島、廣岡

監事：高井

オンラインでの参加：落合、渡邊、出江

オンラインでの参加の監事：砂田

委任状による出席：長島、柴山、田島、田中、早川、大槻

〔報告事項〕

(1) 山行報告

- ・城跡ハイキングとして、1/11 に京王線京王よみうりランド駅～小沢城（見学・昼食）～JR稲田堤駅＝（南武線）＝登戸駅＝（小田急線）＝向ヶ丘遊園駅～梶形山～向ヶ丘遊園駅を実施。参加者は支部会員11名、一般11名。

(2) 連絡事項

- ・本部理事会（12/12 開催）で岡野金次郎祭への理事派遣について協議された旨、議事録に記載されていた。

〔審議事項〕

(1) 年間計画

- ・今後の予定を確認した。
- ・5/10 の城跡ハイキング（大磯高麗山）は、山行後に湘南平で岡野金次郎碑前祭に合流することを予定している。

(2) 山行計画

- ・関東ふれあいの道 2/1 に秦野駅北口＝（バス）＝南平橋バス停～白山神社～浅間山入口～権現山～弘法山～R246 トンネル入口～旧道（矢倉沢往還）分岐点～吾妻山分岐点～吾妻山～坪ノ内バス停～関東ふれあいの道案内板～坪ノ内バス停＝（バス）＝鶴巻温泉駅または伊勢原駅北口）を実施予定。現時点での参加希望者は11名。
- ・自然観察会として、2/15 に東京メトロ大手町駅～和田倉噴水公園～大手門～東御苑（苑内散策・観察、昼食）～北桔橋門～（代官町土手遊歩道）～半蔵門～桜田門～皇居外苑～楠正成像を実施予定。現時点での参加希望者は4名。
- ・城跡ハイキングとして、3/8 に衣笠駅～小矢部城～衣笠城（昼食）～満昌寺（三浦義明の墓）～

衣笠城址バス停＝（バス）＝衣笠十字路～衣笠駅＝（JR 横須賀線）＝久里浜駅～怒田城～久里浜駅を実施予定。

- ・3/15・16 に実施予定の「山の天気ライブ授業」の参加希望者は、現時点で3/15 の座学が60名、3/16 の現地講習が34名（申し込みを打ち切った）。現地講習の山行に関わるスタッフ配置案が提案され了承された。

(3) その他

- ・永井より、本部に提出する令和7年度の支部予算案・支部事業計画案・活動計画案（数値目標）について説明があり、了承された。
- ・永井より、2025 年度特別事業補助金報告と2026 年度の申請に関する途中経過の報告があった。
- ・永井より、広島支部から依頼のあった公益事業に関するアンケート調査への回答について説明があった。
- ・永井より、2025 年度日赤救急法講習会の案内について説明があった。
- ・葉上より、本部の古道プロジェクト主催の第2回現地山行（大分県国東半島4/26・4/27）の参加申し込みに関しての説明があった。
- ・永井より、昨年5月に実施した全国支部懇談会の最終会計報告に関して説明があった。
- ・令和6年度の支部一般会計と特別事業補助金の決算報告へ向けた経過報告があった。
- ・中島より、4/27 の講演会と5/10 の岡野金次郎碑前祭の準備状況の説明があった。

2 月役員会

日時：令和7年2月20日(木):19:00~20:50

場所：かながわ県民センター709 会議室

出席者：早川副支部長、永井事務局長、長島、中島、森

オンラインでの参加：落合、渡邊、込田、葉上

オンラインでの参加の監事：砂田、高井

委任状による出席：大槻、出江、田島

〔報告事項〕

(1) 山行報告

- ・関東ふれあいの道 2/1 に秦野駅北口＝（バス）＝南平橋バス停～白山神社～浅間山入口～権現山～弘法山～R246 トンネル入口～旧道（矢倉沢往還）分岐点～吾妻山分岐点～吾妻山～坪ノ内バス停～関東ふれあいの道案内板～坪ノ内バス停＝（バス）＝伊勢原駅北口）実施。参加者は12名で内2名は非会員。
- ・自然観察会として、2/15 に東京メトロ大手町駅～和田倉噴水公園～大手門～東御苑（苑内散策・観察、昼食）～北桔橋門～（代官町土手遊歩道）～半蔵門～桜田門～皇居外苑～楠正成像を実施。参加者は14名で内1名は非支部会員。

〔審議事項〕

(1) 年間計画

- ・今後の予定を確認した。

(2) 山行計画

・城跡ハイキングとして、3/8 に衣笠駅～小矢部城～衣笠城（昼食）～満昌寺（三浦義明の墓）～衣笠城址バス停＝（バス）＝衣笠十字路～衣笠駅＝（JR 横須賀線）＝久里浜駅～怒田城～久里浜駅を実施予定。現時点での参加希望者は 8 名。

・3/15・16 に実施予定の「山の天気ライブ授業」の実施に関する詳細の説明があった。3/15 のスタッフの集合時間は 12 時 40 分。参加希望者は 3/15 の座学が 92 名（定員 90 名）、3/16 の現地講習が 33 名（定員 30 名）。また、資料が多くコピー代が嵩むため、資料代として 3/15 のみは 200 円、両日は 500 円を協力金として徴収することにした。

(3) その他

・中島より、4/27 に実施する岡野金次郎に関わる講演会の実施概要について説明があった。

・中島より、5/10 に実施予定の岡野金次郎碑前祭の準備状況について説明があった。碑前祭後の懇親会について意見交換したが、取り扱いは中島が関係者と協議して決めることにした。

・永井より、2025 年度特別事業補助金の申請について提案があり、一部修正を加えることで了承された。

・永井より、本部へ報告した全国支部懇談会の最終会計報告について説明があった。

・永井より、支部一般会計の決算見通しについて説明があった。

・永井より、2024 年度の特別事業補助金の事業報告と会計報告案について説明があった。一部経費の数字を確認することとした。

・永井より、4/5・6 に高松市で行われる小島烏水祭の開催案内の説明があった。支部からの参加希望者は永井が取りまとめることにした。

3 月役員会

日時：令和 7 年 3 月 19 日（木）：19:00～20:50

場所：かながわ県民センター705 会議室

出席者：大槻支部長代行、早川副支部長、永井事務局長、中島、森

オンラインでの参加：落合、渡邊、込田、葉上、出江

オンラインでの参加の監事：砂田、高井

委任状による出席：長島、田島

[報告事項]

(1) 山行報告

・城跡ハイキングとして、3/8 に衣笠駅～小矢部城～衣笠城（昼食）～満昌寺（三浦義明の墓）～衣笠城址バス停＝（バス）＝衣笠十字路～衣笠駅＝（JR 横須賀線）＝久里浜駅～怒田城～久里浜駅を実施。参加者は 24 名（支部 10 名、他支部 2 名、非会員 12 名）。

・3/16 に予定していた大野山での気象ライブ授業の山行は荒天のため中止とし、4/13（日）に延期した。

[審議事項]

(1) 年間計画

・今後の予定を確認した。

(2) 山行計画

・関東ふれあいの道の第 10 回として、4/12 に鶴巻温泉駅＝（バス）＝坪ノ内～長福寺～三ノ宮比々多神社～上粕屋神社前～太田道灌の墓（ランチ）～洞昌院～上粕屋神社～鎧塚～日向薬師バス停＝（バス）＝伊勢原駅を実施予定。参加申し込みは受付中。

・3/16 に荒天のため延期した気象講演のライブ授業に関して 4/13（日）に実施予定。谷峨駅～大野山山頂着 お天気の様子を見ながら現地授業と昼食 山頂発、地蔵岩コースで山北駅へ（下山は往路と同じコースも可能）。現時点での参加申し込みは 27 名（定員 30 名）。

・自然観察会として、4/26 に厚木バスセンター＝バス（上三増行）＝一本松～八菅神社本殿～お花見広場～やすらぎ広場～展望台広場（昼食）～みずとみどりの青空博物館～-鳶尾山～-稲荷木バス停＝バス＝本厚木駅を実施予定。これから募集開始。

・城跡ハイキングとして、5/10 に平塚駅南口＝（バス）＝西海岸バス停～高来神社～曲輪～高麗山～浅間山～湘南平（昼食・休憩後、第 2 回岡野金次郎碑前祭参加）～大磯駅を実施予定。これから募集開始。

(3) その他

・永井より、県岳連構成員に関する説明があり、当支部から出ている 4 名については継続することを確認した。

・永井より。県岳連で活性化のためのイベントを募集している旨の説明があった。

・大槻より、9/20～9/22 に上高地山岳研究所で山行を含めた懇親会を開催したい旨の提案があり、承認された。

・永井より、支部一般会計と特別事業補助金の会計報告案が示され、今後、細部を確認した上で、支部の会計監査を受けて本部へ報告する旨の説明があった。

・中島より、第 2 回岡野金次郎碑前祭の実施案の説明があり、準備を加速化していくことを確認した。

・中島より、4/27 の講演会の参加希望者が定員の半数弱であるので、更なる広報に努めることとした。

4 月役員会

日時：令和 7 年 4 月 17 日（木）：19:00～20:55

場所：かながわ県民センター705 会議室

出席者：大槻支部長代行、永井事務局長、中島、出江、森

オンラインでの参加：渡邊、葉上、落合、込田、長島、田中

オンラインでの参加の監事：砂田、高井

委任状による出席：廣岡、青木

[報告事項]

(1) 山行報告

・関東ふれあいの道の第10回として、4/12に鶴巻温泉駅＝(バス)＝坪ノ内～長福寺～三ノ宮比々多神社～上粕屋神社前～太田道灌の墓～洞昌院～上粕屋神社(ランチ)～鎧塚～日向薬師バス停＝(バス)＝伊勢原駅を実施。参加者は9名(内2名は非会員)。

・4/13に予定していた大野山での気象ライブ授業の山行は荒天のため中止とした。再々計画は未定。これに関連して、森より、かながわ山岳誌プロジェクトは、立案・踏査・出版・記念講演をすべて完了したので解散することが表明された。

[審議事項]

(1) 年間計画

・今後の予定を確認した。

(2) 山行計画

・自然観察会として、4/26に厚木バスセンター＝バス(上三増行)＝一本松～八菅神社本殿～お花見広場～やすらぎ広場～展望台広場(昼食)～みずとみどりの青空博物館～-鳶尾山～-稲荷木バス停＝バス＝本厚木駅を実施予定。現時点での参加申し込みは4名。

・城跡ハイキングとして、5/10に平塚駅北口＝(バス)＝花水バス停～高来神社～曲輪～高麗山～浅間山～湘南平(昼食・休憩後、第二回岡野金次郎碑前祭参加)～大磯駅を実施予定。現時点での参加申し込みは10名。

・山行委員会主催で、5/17・18にユアーズイン泊での山菜採りと飯縄山山行を計画。参加希望者は10名。

・山行委員会主催で、5/31に甲斐大和駅＝(バス)＝上日川峠～福ちゃん荘～雷岩～大菩薩岳(嶺)～雷岩(昼食)～大菩薩峠～石丸峠～石丸峠入口～上日川峠＝(バス15:45発の最終便)＝甲斐大和駅を実施予定。これから募集開始。

・自然観察会として、6/7に戸塚駅東口＝(バス)＝京急ニュータウン～けやき広場～ばらの丸の丘～舞岡町小川アメニティ～前田の丘～くぬぎ休憩所(昼食)～瓜久保～狐久保～中丸の丘～古谷戸の里～長久保-南の丘～けやき広場～京急ニュータウン＝(バス)＝戸塚駅東口を実施予定。これから募集開始。

・関東ふれあいの道の第11回として、6/14に伊勢原駅北口＝(バス)＝日向薬師バス停～日向薬師～七沢温泉分岐点～七沢神社～セブンイレブン～順礼峠(ランチ)～物見峠～御門橋分岐点～

白山展望台～御門橋分岐点～御門橋バス停＝(バス)＝本厚木駅を実施予定。これから募集開始。

(3) その他

・永井より、総会議案の令和6年度事業報告と関連資料について説明があり、支部総会に提案することが承認された。

・永井より、総会議案の令和6年度会計報告について説明があった。監事からの監査報告について説明があった。これらを支部総会に提案することが承認された。

・永井より、総会議案の令和7年度事業計画と予算計画の案について説明があり、支部総会に提案することが承認された。

・永井より、県岳連登録メンバーについて提案があり、了承された。

・中島より、岡野金次郎に関わる出版記念講演会のスタッフの役割分担についての説明があった。

・中島より、第2回岡野金次郎碑前祭の実施に関する詳細案の説明があった。

・永井より、令和7年度の執行体制について提案があった。審議の結果、次の事項を確認した。

①大槻支部長と長島副支部長の案を支部総会に提案することを承認した。

②森の役員退任と顧問就任を承認した。

③役員の役割分担についてはさらに検討することにした。

5月役員会

日時：令和7年5月15日(木)19:00～20:30

場所：かながわ県民センター709会議室

出席者：大槻支部長代行、永井事務局長、中島、出江

オンラインでの参加：渡辺、葉上、落合、込田、田中、早川

オンラインで参加の監事：砂田、高井

委任状による出席：青木、長島、廣岡

[報告事項]

(1) 山行報告

・自然観察会(4/26八菅山・鳶尾山)

一本松-八菅神社本殿-お花見広場(昼食)-やすらぎ広場-展望台広場-(下り階段)-みずとみどりの青空博物館-鳶尾山(一等三角点)-鳶尾山展望台-鳶尾団地バス停。参加者は8名

・城跡ハイク(5/10高麗山・湘南平)雨天のため中止とした。

[審議事項]

(1) 年間計画

・今後の予定を確認した。

(2) 山行計画

・山行委員会主催で、5/17・18にユアーズイン泊での山菜採りと飯縄山山行を計画。

5/17、長野駅改札口集合 長野駅＝小笠原車＝登山口＝鳥居～飯縄神社～飯縄山～スキー場リフ

ト〜スキー場駐車場 5/18、早朝ユアーズイン近くで山菜採り、朝食後、車で移動。その時の状況で場所を決める。16 時頃に最寄りの新幹線駅まで送っていただき解散。

参加希望者は 11 名。留守本部は、中島、永井(現地)

・山行委員会主催で、5/31 に甲斐大和駅＝(バス)＝上日川峠～福ちゃん荘～雷岩～大菩薩岳(嶺)～雷岩(昼食)～大菩薩峠～石丸峠～石丸峠入口～上日川峠＝(バス 15:45 発の最終便)＝甲斐大和駅を実施予定。留守本部は、渡邊、永井(現地)

・自然観察会として、6/7 に戸塚駅東口＝(バス)＝京急ニュータウン～けやき広場～ばらの丸の丘～舞岡町小川アメニティ～前田の丘・くぬぎ休憩所(昼食)～瓜久保～狐久保～中丸の丘～古谷戸の里～長久保-南の丘～けやき広場～京急ニュータウン＝(バス)＝戸塚駅東口を実施予定。留守本部は渡邊(現地)

・関東ふれあいの道の第 11 回として、6/14 に伊勢原駅北口＝(バス)＝日向薬師バス停～日向薬師～七沢温泉分岐点～七沢神社～セブンイレブン～順礼峠(ランチ)～物見峠～御門橋分岐点～白山展望台～御門橋分岐点～御門橋バス停＝(バス)＝本厚木駅を実施予定。留守本部は永井(現地)

(3) その他

・田中より、第 15 回登山教室「指導者養成講習会」について報告があった。来年は 3 月 14 日・15 日を予定。

・永井より、埼玉支部主催の「登山を健康長寿に生かすために」講演会(齋藤繁先生)について報告があった。

・中島より、岡野金次郎講演会について報告があった。参加者 50 人。(神奈川支部 20 人、他支部 4 人、岡野親族 3 人、その他一般 23 人)

・中島より、岡野金次郎講演会アンケートについて報告があった。講演会を知った方法は、支部からの連絡 6 人、友人知人から 9 人、JAC サイト 3 人、JAC 会報 3 人、講師から紹介 4 人など。講演内容については高評を得た。

・中島より、第 2 回岡野金次郎碑前祭報告があった。参加者 60 人。(城跡ハイクが中止となったので 10 人減) 碑前祭後の食事会は 28 人が出席。中島より次回内容に対するご意見が欲しいとの依頼あり。

6 月役員会

日時：令和 7 年 6 月 19 日(木)：19:00～20:55

場所：かながわ県民センター709 会議室

出席者：大槻支部長、長島副支部長、永井事務局長、中島、出江

オンラインでの参加：渡辺、早川、植木

オンラインで参加の監事：砂田、高井

委任状による出席：葉上、青木、込田、田中、田島。廣岡

[報告事項]

(1) 山行報告

・山行委員会 (5/17・18 山菜採り&飯縄山)

初日午前中が雨だったことから初日に山菜採り、2 日目に飯縄山と計画変更。初日：戸隠森林植物園(水芭蕉群落等)を見学。午後から雨が上がり、ユアーズイン周辺で山菜採り。2 日目：戸隠スキー場駐車場-西登山口-鳥居-飯縄山-瑠璃山-戸隠スキー場駐車場。参加者は 11 名。コース完歩は 8 名

・山行委員会 (5/31 大菩薩嶺) 雨天のため中止とした。

・自然観察会 (6/7 舞岡公園) 京急ニュータウン-けやき広場(準備)-ばらの丸の丘-舞岡町小川アメニティ-瓜久保-前田の丘・くぬぎ休憩所(昼食)-狐久保-中丸の丘-小谷戸の里-長久保-南の丘-さくら休憩所-京急ニュータウン。参加者 12 人。

・関東ふれあいの道 11(6/14 順礼峠のみち) 雨天のため中止とした。

[審議事項]

(1) 年間計画

・今後の予定を確認した。

(2) 山行計画

・上高地山岳研究所での懇親会案内

9/20～9/22 の 2 泊 3 日が基本プラン。募集人員は 20 名。現在、10 名ほど申込有。2 日目の 21 日はトレッキングを計画予定。

(3) その他

・中島より、第 3 回岡野金次郎碑前祭について報告・検討事項があった。第 3 回は 2026 年 5 月 9 日を予定(第 2 土曜日)。開始時間の繰り上げを検討したが、来年は今年同様 14:30～15:40 とした。雨天中止(湘南平での開催中止)の場合の対応策として食事会の時間の前半 20 分ぐらいを碑前祭に利用。その際、市長の出席は 2 日前の木曜に打診。岡野氏の挨拶を優先とし、合唱の扱いは要検討とする。岡野金次郎氏のパネルを利用し、花束の供花は実施する。なお湘南平へのバスダイヤは常にウォッチする。

・永井より、全国ボランティア支援登山集会案内について説明があった。11 月 15 日・16 日で場所は東海支部。まだ時間的に余裕があるので支部員へ永井よりメールで案内を流し、支部員の中で希望者を探すこととした。

・永井より繰越金についての説明があった。繰越金内の基金分を明確化する意味で、現行の支部口座に定期預金口座を作成し入金することを検討する。

・永井より支部連絡会(5/28)の報告を行った。内

容は日本山岳会 120 周年記念のための寄附依頼とハラスメントガイダンス

- ・永井より、「山岳」寄稿依頼の説明があった。例年通り永井作成で提出する。
- ・永井より、県岳連会報「ときわ木」への記事原稿の報告があった。
- ・大槻より、支部員コミュニティ活性化と個人山行による支部活性化の説明がされた。支部内での定期的な会合の企画などが出された。

支部会員動静

- ・15166 中村好至恵 支部入会(1/7)
- ・15814 谷山宏典 支部入会(1/7)
- ・9481 渡辺恒美 物故(1/16)
- ・17044 黒沼英美 支部入会(3/28)
- ・16185 志波喜久子 JAC 退会(3/31)
- ・17483 仲吉洋一 JAC&支部入会(4/9)
- ・17493 茅野英一 JAC&支部入会(4/15)
- ・17495 山野井茂樹 JAC&支部入会(4/16)
- ・17504 小笠原敏 JAC&支部入会(5/13)
- ・12323 舟根章 JAC 退会(5/12)
- ・12102 富岡一郎 JAC 退会(5/27)
- ・17520 石井尚人 JAC&支部入会(6/11)
- ・17528 金井徳兼 JAC&支部入会(6/19)

今後の予定

役員会

- 9 月 16 日(木)19 時～ 709 会議室
- 10 月 16 日(木)19 時～ 709 会議室
- 11 月 20 日(木)19 時～ 709 会議室
- 12 月 18 日(木)19 時～ 709 会議室
- 2026 年
- 1 月 15 日(木)19 時～ 709 会議室

- 2 月 19 日(木)19 時～ 709 会議室
- 3 月 19 日(木)19 時～ 709 会議室
- 4 月 16 日(木)19 時～ 会議室未定
- 5 月 21 日(木)19 時～ 会議室未定
- 於：かながわ県民センター

支部総会

- 2026 年 5 月 23 日(土) 午後(詳細追而)
- 於：かながわ県民センター 会議室未定

イベント(城跡ハイキング)

- 11 月 8 日(土) 鎌倉城①源氏山・大仏
- 1 月 10 日(土) 鎌倉城②衣張山・名越切通
- 3 月 14 日(土) 江戸城

イベント(関東ふれあいの道ハイキング)

- 10 月 11 日(土) 順礼峠のみち⑪
- 12 月 20 日(土) 丹沢山塊東辺のみち⑫
- 2 月 7 日(土) 山里から津久井湖へのみち⑬

イベント(自然観察会)

- 2 月 14 日(土) 東京湾野鳥公園

イベント(その他)

- 11 月 15 日(土)・16 日(日)
- 全国ボランティア集会(東海支部)
- 12 月 6 日(土)
- 120 周年式典・年次晩餐会(京王プラザ)
- 12 月 7 日(日)
- 120 周年記念山行 高尾山(薬王院)
- 12 月 14 日(日)
- 南関東 4 支部山行(幹事:東京多摩支部)

あとがき

支部報の発行が遅れ、特に新しく神奈川支部会員になられた方々には、情報提供が遅れ、誠に申し訳ございません。心よりお詫び申し上げます。

今後のイベントとして 12 月 6 日(土)の日本山岳会 120 周年記念式典及び晩餐会、12 月 14 日の南関東 4 支部山行(従来の埼玉、東京多摩、神奈川に東京を追加)も計画されております。皆様におかれましては、積極的なご参加を宜しくお願い致します。

発行：日本山岳会神奈川支部 支部長：大槻利行
編集者：田島、永井、葉上

令和 7 年 9 月 30 日